



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)コープさっぽろしろいし中央店 建設工事	階数	2
建設地	白石区中央3条3丁目26-1、17-1、17-3、18	構造	S造
用途地域	都市計画区域内、市街化区域、準工業地域	平均居住人員	2,700 人
建物用途	物販店	年間使用時間	5,292 時間/年(想定値)
竣工年	2021年4月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	5,082 m ²	評価の実施日	2020年10月2日
建築面積	2,066 m ²	作成者	笹木 勇一
延床面積	3,708 m ²	確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 68%

③上記②以外のオンサイト手法 68%

④上記オフサイト手法 68%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEE][BEIm]= 0.66

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.8

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項	
総合 室内環境、サービス性能への配慮を行う。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し来客の利便性に配慮、荷捌き車両の駐車スペースも確保するなど交通負荷の抑制にも心掛けている。	A 省エネルギー 外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮。また、LED照明器具などの高効率機器を採用しエネルギー消費量低減に配慮している。
B 省資源等 ビン・缶類などの減容化・減量化対策を計画し、廃棄物処理の抑制に心掛けた。	C 緑化 生垣を設け環境の保全や街並みの景観を考慮している。
	D 雪処理 特になし。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)
 (仮称)コープさっぽろしろいし中央店 建設工事

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能 省エネ 加重平均レベル 4.57								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備 省エネ								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御 省エネ								
2 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
F☆☆☆☆建材を全面的に採用 更にホルムアルデヒド以外のVOCにも配慮した材料を採用。								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								

Q2 サービス性能				0.30	-	-	3.0
1 機能性				2.7	0.40	-	2.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	
1	広さ・収納性				-	-	
2	高度情報通信設備対応				-	-	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	
1.2 心理性・快適性				2.0	0.30	-	
1	広さ感・景観 (天井高)			3.0	0.33	-	
2	リフレッシュスペース			2.0	0.33	-	
3	内装計画			1.0	0.33	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	ガルバリウム鋼板 25年	4.0	0.20	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源		3.0	0.10	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要な用途2種についてC以上	4.0	0.20	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		2.0	0.20	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		1F: 4.83mH、2F: 3.929mH	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率: 0.11	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI _m : 0.69	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.66 -	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体と仕上材が容易に分別可能 内装材と設備が錯綜せず、それぞれを取り外し可能	5.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	省資源	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率が、68%	4.2	0.33	-	4.2
2	地域環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
2.1	大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄熱		3.0	0.50	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制		適切な量の駐車スペースを確保。荷捌き用車両の駐車施設の確保。	5.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 資源 処理	ゴミの種類や量の推計。ビン・缶類などの減容化・減量化対策を計画している。	5.0	0.25	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1	騒音			3.0	1.00	-	
2	振動			-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制				-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	
3.3	光害の抑制			3.0	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.1	BEEランク	B+
建物名称	(仮称)コープさっぽろしろいし中央店 建設工事				
建物用途	物販店.				
延床面積	3,707.8 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★☆☆☆☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 7.2)				合計		18.9点 /23.1点	
Q1 温熱環境	スコア	0.6	/0.6	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0	/4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.5	/2.5	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	/2.0
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0	/10.0
				LR1 効率的運用	スコア	1.6	/4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)				合計		14.9点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0	/9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3	/1.9
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.2	/5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.8	/4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計		5.7点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9	/4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5	/2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	2.4	/6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計		0.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0	/2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数